

安くて手軽なそのファッションは、持続可能？ 毎日の服の選び方が地球の未来を変える！

サステナブル

毎日身に着ける服。ファッションの短サイクル化や低価格化によって、より多くの服が生み出され、消費されています。服の製造にはCO₂が排出されたり、原料となる植物栽培や染色などで大量の水が使われたりします。日本の小売市場で売られている衣料品の約98%が海外からの輸入に頼っており、様々な工場や人を介して私たちの手元に商品が届くまでに大きな環境負荷がかかっています。現在の大量に服を生産し、消費(購入)するサイクルは持続可能と言えるでしょうか。サステナブル(=持続可能な)ファッションに向けて私たちに何ができるか考えてみましょう。

日本のファッションを取り巻く環境

衣服のライフサイクルは年々短くなっています



衣服の供給量(2021年)
約36億着

サステナブルファッション

衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や関わる人・社会に配慮した取り組みのこと



1年に1回も着られていない服はどれくらい？

一人あたり(年間)
購入する服 18枚
手放す服 15枚
1年間で1回も着られない服 35枚

衣服を生産するのにこれだけの環境負荷がかかります

一枚あたり
原材料調達～製造段階までに排出される
環境負荷の総量(年間)

水消費量 約2,300L
CO₂排出量 約25.5kg

環境省「SUSTAINABLE FASHION」より

“持続可能な”ファッションの実現に向けてわたしたちにできること

— 着なくなった服、「捨てる」以外の選択肢はある？

新しい服を買う前に Check !

Q1 その服は本当に必要？



✓ 買う

長く着られそうな素材・デザインを選ぶ

▶ 衝動買いしたものはすぐに飽きてしまうかも。

服が生産された背景に着目して選ぶ

▶ その服は、生産の過程で環境負荷を与えていないだろうか？調べてみよう。

リユースショップ・フリマ等で購入する

▶ 誰かが手放した服を古着として活用することは環境にやさしい取組です。

CO₂削減量
29 kg/人

1年間に購入する服の10%(1.8枚)をリサイクル素材を使った服にした場合

CO₂削減量
40 kg/人

1年間に購入する服の10%(1.8枚)をフリマで購入した場合

“買わない”こともサステナブルファッション!

✓ 買わない

家族や友人同士で着回す

レンタルサービスを利用する

▶ 普段着ない服を試すチャンスになるかも!

CO₂削減量
194 kg/人

衣服の購入量を4分の1程度にした場合

Q2 なるべく手放さない工夫はできない？



✓ 長持ちするよう使う

素材にあわせたケアをする

▶ カシミア、ウールなどのデリケートな素材に特に注意しよう。

洗濯の回数を減らす

▶ 汚れが目立たないときは洗濯を控えたり、なるべくまとめて洗濯しよう。

お直し・リペアをする

▶ 穴を縫ったり、ボタンを付け替えたりしてみよう。

✓ 新たな着こなしを探る

SNSでコーディネート調べる

▶ 持っている服と同じようなものを使ったコーディネートを参考にしてみよう。

✓ 変形して使う

リメイクする

▶ 自分好みに手を加えてオリジナルアイテムにしてみよう。

日本全体における衣服の廃棄削減量

3 万t

+1年長く着た場合

▼ 次頁につづく

Q3 どうしても手放したいときは？



廃棄物を再利用する
Recycle

① ② ③

古着の回収サービスを利用する

▶一部ブランドでは、不要な衣服を回収しリサイクルやリユースを行っています。

リユースショップ・フリマ等で販売する

寄付をする

ちょっと待って！
ごみとして処分するのは最後の手！

④ ⑤ ⑥

▶まだ着られる服は、可燃ごみではなく「資源ごみ」!!
多くの地域で古着を集団資源回収の対象としています。

服1着をとっても、3R【Reduce-廃棄物を減らす】【Reuse-繰り返し使用する】【Recycle-廃棄物を再利用する】を基本として様々な活用方法があります。不要になった服の活用方法は、古着屋に売りに出すことや寄付をすることだけでなく、もっとも大切なのは、**購入する前にその服が本当に必要かどうかをじっくり考えること**です。“かわいい!” “オシャレ!” な服を着たいのは皆同じ。でも買って見たのは良いけれど、着こなしがわからない…とタンスの肥やしになることはありませんか？

手持ちの服との組み合わせがイメージできるものを購入すると無駄がなくなるかもしれません。服を購入したら、1着1着に愛着をもってできるだけ長く着る工夫をしたいですね。

- 地域におけるサステナブルファッションの取組 -

“楽しいこと”の先に身近にできる環境行動!!

滋賀県では - 導入事例の紹介 -

メンバーの方にインタビューしました!

環境団体 まるえこ “どうぞの会”

運営メンバー
丸柱さん・岡さん・山路さん

近江八幡市を中心に“どうぞの会”実施中!
イベント情報はこちら▶



2~3ヶ月に1回

まるえこ立ち上げのきっかけ

2019年に環境活動家 谷口たかひささんの講演を聴き、気候変動の状況を知りました。はじめは脱プラ製品を販売しようと立ち上げましたが、同時に子ども服などを交換していたのが今の取組につながりました。現在まで4年ほど活動が続いています。(丸柱さん)

皆でつくるからこそ継続できる

他の団体と違うところは、出品者の方も一緒に当日の会場準備を手伝ってもらったり、残った品物は各自で持ち帰ってもらうところ。運営側が在庫をもたずに済むので、次のイベント開催へのハードルが下がりますし、皆でイベントをつくっている実感にもなります。楽しみながらやるのが大切です。(岡さん)

誰かの不要なモノが 誰かの必要なモノに

「どうぞの会」で貰った服を次の機会に着てきてくれる方がいたり、出品者からは「こんなモノも貰ってくれて嬉しい!」という声をよく聞きます。出品する人にとって不要なモノでも、必要な人は沢山いるのだと実感しました。(丸柱さん・岡さん)

「モノを循環させる大切さを実感」

“子育てをきっかけにイベントに参加する中でモノを循環させることの大切さを実感し、子どもたちの将来の地球環境に思いを馳せるようになりました。「環境問題」と聞くと大きなことのように感じますが、自分ができることは身近なところに沢山あると思いました。(山路さん)”

衣服以外の循環にも挑戦したい

今後は衣服だけでなく、粗大ごみになっていた家具などをリペアして新しい人の手に渡る取組をしたいと考えています。(岡さん)



“どうぞの会” 2~3ヶ月に1回・土日1時間ほど 開催場所はInstagramで発信。出品者：各回10組ほど・Instagramで募集



竜王町エコライフ推進協議会 (竜王町)

年2~3回

衣服のリユース “どうぞの会”

昨年度より、町民から不要な服を集め、ベビー服~大人の服まで自由に持って帰ることができる取組を行っています。家に眠ったまま着ていない服を手放すことができたり、すぐにサイズが変わってしまうベビー服を買う必要がなくなったり、あげる側・もらう側 両者にとっても良いと、町民に人気のイベントになっています。

回収した衣服 256kg ▶ 残った衣服 77kg 179kgの衣服が新しい持ち主の手に!



長峰自治会連合会 (東近江市)

年1回

制服リユースと古着の回収



不要になった制服や体操服を集めてクリーニングに出し、希望者に無償で配布する取組を昨年度から行っています。地域住民からは、洗い替えのためなどに活用されています。また地区には常設の古着・古布回収ステーションがあり、住民から集まった製品は海外に送られ再利用されています。

おうちでやってみよう! ネットゼロアクション

- 👍 新しい服を買う前に、本当に必要か考えてみよう
- 👍 着ないまま眠っている服がないか探してみよう
- 👍 買った服をできるだけ長く着よう
- 👍 不要になった服は「ごみに出す」以外の方法で手放せないか考えてみよう
- 👍 自分が住む地域で行われているサステナブルファッションの取り組みを調べてみよう

環境省「SUSTAINABLE FASHION」、消費者庁「サステナブルファッション習慣のすすめ」より

賛同はこちらから▶



滋賀県では、「2050年までにCO₂排出量を実質ゼロ(=CO₂ネットゼロ)にすること」を目指しています。琵琶湖をはじめとする豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐため、一緒に「しがCO₂ネットゼロムーブメント」の取組を進めていきましょう!
活動に賛同いただける方は、左記QRコードから「CO₂ネットゼロ」に向けて行動することの宣言をお願いします。

発行 滋賀県 総合企画部 CO₂ネットゼロ推進課
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
TEL: 077-528-3494 FAX: 077-528-4808
E-mail: cg00@pref.shiga.lg.jp
編集 滋賀県地球温暖化防止活動推進センター